

プレスリリース



平成20年8月26日
内閣府
原子力政策担当室

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)
第2回アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル開催について
—原子力発電にかかわる安全確保のための基盤整備について—

○内閣府及び原子力委員会は、原子力安全委員会の後援のもと、9月1日(月)～9月2日(火)に東京、三田共用会議所(国際会議場(3階))にて**第2回アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル**を開催いたします。

○FNCAとは、我が国主導でアジア地域の原子力技術の平和的で安全な利用を進めるための協力フォーラムです。(ホームページ：<http://www.fnca.mext.go.jp/>)。FNCAでは、近年のアジアにおける原子力発電導入の動きを受け、5年前より、地域における原子力発電の役割や原子力発電の推進に関する協力について検討するパネルを開催しています(第1フェーズ:3年間、第2フェーズ:2年間(今回が最終年))。

○今次パネルにおいては「**原子力発電にかかわる安全確保のための基盤整備について**」をテーマにFNCA参加国から原子力政策や規制を担当する上級行政官、専門家を招聘し、各国における原子力安全の確保に関する活動状況報告や、安全確保にかかわる基盤整備の経験についての講演等をもとに今後の協力についての議論を行います。また、これまでのパネルの成果の総括と来年度以降の活動方針についても議論を行う予定です。

1. 主催 内閣府 原子力委員会 (後援:原子力安全委員会)
2. 開催日時 平成20年9月1日(月)～9月2日(火)
3. 開催場所 東京(三田共用会議所 国際会議室(3階))(地図別添)
4. 参加予定国及び機関
バングラディッシュ、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム、IAEA(国際原子力機関)

※日本からは近藤原子力委員会委員長、田中委員長代理をはじめ原子力委員、早田原子力安全委員会委員(第2回パネル議長)、町FNCA日本コーディネーター他、関係省庁等が出席する予定。

5. 報道関係者の傍聴及び取材

報道関係者の傍聴及び取材は9月1日(月)の開会セッション(9:30~10:00)のみ可能です。傍聴や取材、カメラ撮り等を希望される報道関係者は、傍聴席確保の必要上、開催前(8月29日(金))までに、以下の問い合わせ先にご氏名、ご所属及びご連絡先をご登録下さい。

なお、傍聴は1社につき原則1名(撮影のために入場する報道関係者は除く。)とし、会議室への入室の際には、登録された本人であることが確認できるものを提示していただくとともに、社名入り腕章を着用して下さい。

[傍聴希望の受付：三田共用会議所 国際会議室(3階)前]

(問い合わせ先)

内閣府政策統括官(科学技術政策・イノベーション担当)付 原子力担当
横尾、山本、川端

電話：03-3581-6690(直通)

03-5253-2111(内線44647)

FAX：03-3581-9828

(別添1)

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)
第2回アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル
ー原子力発電に関わる安全確保のための基盤整備についてー
プログラム案

平成20年9月1日(月)

プレスオープンは9月1日の
セッション1:開会セッションのみ(●)

●セッション1:開会セッション(9:30~10:00)

1. 開会挨拶(早田 邦久 第2回パネル議長(原子力安全委員会委員))
2. 歓迎挨拶(近藤 駿介 原子力委員会委員長)
3. 各国参加者紹介
4. アジェンダの説明(町 末男 FNCA日本コーディネーター)

セッション2:カントリーレポート

セッション3:安全確保のための基盤整備に関する講演

平成20年9月2日(火)

セッション4:安全にかかわる基盤整備の協力に関する円卓討議

セッション5:第1回パネル会合(テーマ:人材育成)のフォロー

セッション6:第9回FNCA大臣級会合への報告内容の議論

セッション7:検討パネルの総括と来年度以降の活動方針

セッション8:閉会セッション

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)

第2回アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル

－原子力発電に関わる安全確保のための基盤整備について－

海外参加者一覧

①オーストラリア

今回出席者なし

②バングラデシュ

- 1) Dr. Farid Uddin AHMED (ファリッド・ウッディン・アーメッド)
バングラデシュ原子力委員会(BAEC) メンバー(物理科学)

③中国

- 1) Dr. ZHOU Shirong (チョウ・シロン)
国家核安全局(NNSA)原子力発電課長

④インドネシア

- 1) Dr. Taswanda Taryo (タスワンダ・タリョ)
インドネシアコーディネーター
インドネシア原子力庁(BATAN)次官(研究開発研究利用及び科学技術社会化担当)
- 2) Dr. Khoirul HUDA (コイルール・フダ)
インドネシア原子力規制庁(BAPETEN)原子力施設及び物質規制課長

⑤韓国

- 1) Dr. Hyun Sop CHANG (ヒュンソップ・チャン)
韓国原子力安全技術院(KINS) 政策協力部部長

⑥マレーシア

- 1) Dr. Muhd. Noor Muhd. YUNUS (モハメド・ノール・モハメド・ユナス)
マレーシアコーディネーター
マレーシア原子力庁(MINT)副長官(技術サービス)
- 2) Mrs. Azlina Md. JAIS (アズリナ・モハンマド・ジャイス)
マレーシア原子力規制機関(AELB) 原子力施設課長

⑦フィリピン

- 1) Dr. Alumanda M. DELA ROSA (アルマンダ・モリナ・デラロサ)
フィリピンコーディネーター
フィリピン原子力研究所所長
- 2) Dr. Vangeline K. Parami (ヴァンジェリン・K・パラミ)
フィリピン原子力研究所(PNRI) 原子力規制認可及び保障措置課
認可レビュー評価セクション長

⑧タイ

- 1) Mr. Manit SONSUK (マニット・ソンスック)
タイ原子力技術研究所(TINT) 副所長
- 2) Mr. Sirichai KEINMEESUKE (シリチャイ・ケインメースケ)
タイ原子力庁(OAP)副長官

⑨ベトナム

- 1) Mr. LE Doan Phac (レ・ドン・ファック)
ベトナム原子力委員会国際協力部長
- 2) Mr. Nguyen Nam Giang (グエン・ナム・ジャン)
ベトナム原子力安全機構(VARANSAC)原子力安全保障措置部副課長

⑩IAEA(国際原子力機関)

- 1) Mr. Philippe LEMOINE (フィリップ・リモーネ)
国際原子力機関 安全情報官

アジア原子力協力フォーラム (FNCA: Forum for Nuclear Cooperation in Asia)の概要

平成20年8月

1. 目的

積極的な地域のパートナーシップを通して、原子力技術の平和的で安全な利用を進め、社会・経済的発展を促進することを目指す

2. 参加国

日本、オーストラリア、バングラディッシュ、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの10カ国(この他にIAEAがオブザーバー参加)

3. 経緯

原子力委員会が主催して開催してきた、近隣アジア諸国の原子力関係者が一同に会し、情報交換及び地域協力のあり方を議論する場であった「アジア地域原子力協力国際会議」を発展的に改組し、平成11年4月に「アジア原子力協力フォーラム」が発足した。

<原子力政策大綱における位置づけ(アジア諸国との協力部分)>

我が国が主体的・能動的に協力を行う国・地域は、地政学的にも経済的にも緊密な関係を有するアジアを中心とする。(略) これらの協力に当たっては、相手国の自主性を重んじ、パートナーシップに基づくことを基本として、例えばアジア原子力協力フォーラム(FNCA)、IAEAのアジア原子力地域協力協定(RCA)といった多国間の枠組みや、二国間及び国際機関を通じた枠組みを目的に応じて効果的に利用することが適切である。

参考:「アジア地域原子力協力国際会議」は1990年、アジア地域での放射線利用や研究炉での利用の推進に貢献するために、日本主導で設立された。1999年、これまでの協力活動全体を総括し、内外との連絡・調整を行う「コーディネーター」を各国から選任し、その下で専門的見地から活動する「プロジェクトリーダー」を各協力分野ごとに選任し、より組織的な協力活動を進めることのできるFNCA新体制に移行した。

4. 枠組み

① 大臣級会合

各国の原子力を所管する大臣級代表が出席して、原子力技術の平和利用に関する地域協力のための政策対話を行う。なお、大臣級会合を補佐するための上級行政官会合を付設。日本と参加国で交互に毎年1回開催。

(開催実績)

- 第1回大臣級会合:平成12年11月(タイ)大島科学技術庁長官出席
テーマ「原子力利用の推進」、「原子力安全」、「地域原子力協力の推進」
- 第2回大臣級会合:平成13年11月(東京)尾身科学技術政策担当大臣出席
テーマ「持続可能な発展と原子力」、「放射線利用分野における協力のあり方」
- 第3回大臣級会合:平成14年10月(韓国)細田科学技術政策担当大臣出席
テーマ「人材養成戦略」、「持続可能な発展と原子力」
- 第4回大臣級会合:平成15年12月(沖縄)茂木科学技術政策担当大臣出席
テーマ「放射線・ラジオアイソトープ利用の社会・経済的効果の増大」、
「持続可能な発展と原子力エネルギー」
- 第5回大臣級会合:平成16年12月(ベトナム)棚橋科学技術政策担当大臣出席
テーマ「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」、
「FNCAの今後のあり方」
- 第6回大臣級会合:平成17年12月(東京)松田科学技術政策担当大臣出席
テーマ「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」
「科学技術と原子力」
- 第7回大臣級会合:平成18年11月(マレーシア)平沢内閣府副大臣出席
テーマ「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」
「原子力エネルギーの広報」
- 第8回大臣級会合:平成19年12月(東京)岸田科学技術政策担当大臣出席
テーマ「原子力エネルギーの平和利用への取組みとFNCA活動」
「放射線利用を中心としたFNCA活動」
- 第9回大臣級会合:平成20年秋頃(フィリピン)開催予定

② 個別プロジェクトについての協力活動

FNCAは、研究炉利用、農業利用、医学利用、原子力広報、放射性廃棄物管理、原子力安全文化、人材養成、工業利用の8つの分野で11のプロジェクトを展開している。プロジェクト毎に各国1名のプロジェクトリーダーが任命されている。各参加国のプロジェクトリーダーは、自国におけるプロジェクト活動を実施していく責任を有する。プロジェクト毎に、通常年1回のワークショップ等を開催し、それぞれの国の進捗状況と成果を発表・討議して、次期実施計画を策定する。

③ コーディネーターとコーディネーター会合

自国におけるFNCAプロジェクトの実施に責任を持つとともに、協力活動全体を総括して参加国相互の連絡調整を行う役割を持つコーディネーターが各国から1名選任されている。プロジェクトの実施状況を評価・レビューするとともに、全体計画を討議するため、コーディネーター会合を年1回日本で開催。

(開催実績)

- 第1回 コーディネーター会合 2000年3月 東京
- 第2回 コーディネーター会合 2001年3月 東京
- 第3回 コーディネーター会合 2002年3月 東京
- 第4回 コーディネーター会合 2003年3月 沖縄
- 第5回 コーディネーター会合 2004年3月 東京
- 第6回 コーディネーター会合 2005年3月 東京
- 第7回 コーディネーター会合 2006年3月 東京
- 第8回 コーディネーター会合 2007年2月 東京
- 第9回 コーディネーター会合 2008年3月 東京

④「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」

平成16年から平成18年の3ヵ年「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」検討パネルを開催し、アジア地域における長期的な環境問題への対応やエネルギー資源の確保の面から原子力エネルギーの役割を評価した。その結果を受け、第2フェーズとして平成19年から2ヵ年で「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」を開催予定。

(開催実績)

■第1フェーズ

「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割検討パネル」

- 第1回 パネル会合 2004年10月 東京
- 第2回 パネル会合 2006年1月 東京
- 第3回 パネル会合 2006年11月 敦賀

■第2フェーズ

「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」

- 第1回 パネル会合 2007年10月 東京
- 第2回 パネル会合 2008年9月 東京 開催予定

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)の枠組み



